平成28年6月　№266

学　校　だ　よ　り

中央区立京橋築地小学校
東京都中央区築地2丁目13番1号

イチゴが甘いのは・・・

校　長　茂呂　政孝

この時期になると、数年前、尾瀬の大清水湿原に行き、妖精とも例えられる可憐な花「水芭蕉」の群生に出会い、大いに癒されたことを思い出します。

その帰り、ハウス栽培のイチゴ狩りも堪能しました。甘いイチゴもありましたが、真っ赤な外見ほどには甘くないものもあり、こんなに赤いのにどうして…？と、ちょっと不思議に思っていました。その折に、イチゴを栽培している農家の方が、こんな話をしてくださいました。

イチゴの収穫は、今頃の時期が最後になるそうです。それは、この時期になると日差しも強く、気温も高くなるため、イチゴの表面だけがすぐに赤くなってしまい、甘さはそれほど増さないのだそうです。しかし、寒さの厳しい１、２月の時期は、ハウスの中でも、日差しが弱く、気温もなかなか上がらないため、実の中心からじっくりじっくりと時間をかけて熟していき、その分、イチゴの甘みも増すそうです。

私は、この話を伺ったとき、人間も同じだなと思いました。

例えば、子どもたちにとっての学習も同じことが言えるのではないでしょうか。

計算や漢字の定着を図ることもそうですが、楽器の練習などでも、毎日３０分ほどの時間でも、練習を一日も欠かさずこつこつと続けることで、着実に力をつけいくそうです。これを面倒がって、週一回まとめて３時間ほどの練習をした場合、練習時間の合計は変わらなくても毎日練習した方が効果があるのだそうです。

つまり、じっくりこつこつと努力をしていくことの大切さは、イチゴが甘さを増すことと同じなのではないでしょうか。

京橋築地小学校の子どもたちも、どんな事にも、どんな時にも、決してあきらめることなくこつこつと努力を積み重ね、この甘いイチゴのように確実な力を蓄えることのできる子どもたちに育っていって欲しいと心から願っています。

今月も、子どもたちとともに、じっくりと構え、様々なことにこつこつと取り組んでまいります。地域、保護者の皆様のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

６　月　の　行　事　予　定

１日（水）６時間授業（３～６年）
　　スポーツテスト
２日（木）センター教室（３年）
　　社会科見学（４年）
　　こころの劇場（６年）
３日（金）縦割り班遊び
５日（日）日曜学校公開日
６日（月）振替休業日
７日（火）安全指導　委員会活動
　　セカンドスクール説明会（４年）
８日（水）プール開き
１０日（金）社会科見学（３年）
１３日（月）全校朝会　クラブ活動③
１５日（水）4時間授業（全）
１６日（木）校内研究会(３年２組)３年２組以外は4時間授業

１７日（金）よい歯の集会　避難訓練
２０日（月）全校朝会　クラブ活動④
２１日（火）京築まつり集会
２２日（水）京築まつり
２４日（金）救急救命法 15：30～16：30
２５日（土）開校記念日
２７日（月）全校朝会　読書週間（７月８日まで）
　　音楽鑑賞教室（６年）
　　６時間授業(３～６年)
２８日（火）保護者による読み聞かせ
２９日（水）セカンドスクール（４年）（7月１日まで）
３０日（木）自転車教室（３年 9:00～10：30）

最高学年として（6年生）

下学年をリードする　　○○　○○

４月の初めはまだ５年生の気持ちが残っていましたが、６年生になっておよそ２か月が過ぎ、最高学年としての意識が高まってきたと思います。生活の態度を気をつけたり、１年生に優しく接したり、様々な場面で下学年を引っ張っていく６年生になりたいです。昨年度の６年生を越えるために、自分だけでなく、学校も「Change！」したいです。頑張るので、応援してください。

Change！あいさつの輪を広げよう！　　○○　○○

私たちは最高学年として「Change！」というスローガンを掲げました。特に力を入れたいのはあいさつです。５年生までは、大きな声であいさつするのが恥ずかしくて、小さな声でしかできていませんでした。今年は最高学年の自覚をもち、下級生のお手本になるようなあいさつに Change！したいです。そして、全校に笑顔のあいさつを広げていきたいです。

京築小を変えていきたい　　○○　○○○

私たちの学年目標は“Change！”です。何をChangeするのかというと、一番はあいさつです。どの学校でも初めに会った時に言うのはあいさつ。「おはよう！」「こんにちは！」、そのたった４文字や５文字で、その学校の印象が変わります。だから、私は最高学年として、まず良いあいさつをして、京築小をあいさつの飛び交う学校にしていきたいと思います。

6年生としてがんばりたいこと　　○○○　○○

私が最高学年としてがんばりたいことは二つあります。一つめは低学年のお手本となるあいさつや、言葉づかいをすることです。そして困っているところを見つけたら手伝ってあげたいと思います。二つ目は勉強です。高学年になると覚えなければいけないことがたくさんあります。しっかり取り組み、勉強に励みたいです。

責任の重さ　　○○　○○

私は今まで、６年生は大変だなとしか思っていませんでした。けれど、６年生になってみるとその大変さははるかに予想をこえていました。マーチング、委員会など様々な場面で責任感が必要になります。それはとても重いものです。でも、最高学年として受けついでいかなくてはなりません。だから、みんなと協力し合い、団結し、のりこえていきたいです。

手本になる　　○○　○○

ぼくが６年生でがんばりたいことは二つあります。一つめは、下学年のお手本になることです。小さい子が何か困っていたら、優しく相談にのってあげたいと思います。二つめは勉強とマーチングです。６年生になっていろいろなことが大変になってきたけれど、何事にも全力でとりくみ、頑張っていきたいと思います。

「忍耐力」

生活指導主任　齋藤　直子

私がこの仕事をしてきて、また、自分自身が３人の子育ての最中にあって、本当に大切だが難しいと感じるのは、「忍耐力」を育てることです。

日本の中心地「東京」での生活は、たくさんの情報がすぐに得られ、多くのものは手に入れようと思えば手に入り、交通機関も発達し、総じて待つことが少ないです。そのため、日常の中で、子どもに「待つ」経験をさせることが難しくなっています。

本校の子どもたちも、すぐに結果が得られないことや時間のかかることに根気強く取り組むことが難しい場面が見られます。また、やりたいことを優先してルールを守れなかったり、思い通りにならないときに周囲の気持ちを考えない言動をしてしまったりする子の姿も見られます。しかし、成長するほどに、学習でも人間関係でも、感情を抑え、時間をかけて努力をしなくてはならない場面が増えます。小学校卒業後に「忍耐力」による差が出てくるので、今から心がけて、育てていきたいと考えています。

さて、いざ、学校や子育てで、子どもに「忍耐力」を育てようと心がけてみると、大人がじっくりと付き合って「待つ」必要があることに気づきます。まず、私たち大人が「待つ」姿を見せ、子どもたちにも「忍耐力」を育てていきたいと考えています。子どもたちの幸せを願えばこそ、「待つ」経験をさせてみませんか。